

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月20日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21510290

研究課題名（和文） 医師不足対策における女性医師の就労支援に向けた実証疫学研究

研究課題名（英文） Epidemiological study for the use of women physicians in the era of physician shortage

研究代表者

野村 恭子（NOMURA KYOKO）

帝京大学・医学部・講師

研究者番号：40365987

研究成果の概要（和文）：全国私立医科大学14校を卒業した女性医師（N=1694名；回収率83%）を対象に疫学研究を行った。女性医師の継続就労に影響を与える因子には従前から指摘されてきた女性の社会的役割のほか、医療界の男女の就労格差、学会認定資格や医学博士の取得などが関連していることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：We investigated women physicians (N=1694; response rate 83%) who graduated from 14 private medical schools in Japan. Factors which would influence on the continuation of work for women physicians include gender role expectation suggested by previous studies, gender difference in working opportunity in medicine, board of physicians and Medical Science of Doctor.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000円	390,000円	1,690,000円
2010年度	1,200,000円	360,000円	1,560,000円
2011年度	900,000円	270,000円	1,170,000円
年度			
年度			
総計	3,400,000円	1,020,000円	4,420,000円

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：ジェンダー

キーワード：女性医師・継続就労・医師不足・キャリア意識

## 1. 研究開始当初の背景

我が国における医師数は、人口1000人当たり2.1人（2008年）とOECD諸国に比し絶対的に不足している。こうした医師不足に対し来年度から医学部定員を増員する案が国会で可決されたが、医師が臨床医として一人前になるには、初期研究を終了したとして少なくとも8年という長い年月がかかる。その一方で「医師・歯科医師・薬剤師調査」によれば平成18年度現在で医師資格保有者27万のうち女性医師は21%を占めるが、妊娠・出

産・育児などの理由により休職または離職する者は少なくない。加えて医学部における女性の占める割合は近年増加の一途であり、29歳以下の若年層に限定すると35%を、そして「医師の需給に関する検討会」資料によれば、産婦人科や小児科では20・30台の半数以上を占めている。このような背景を踏まえて女性医師の継続的就業を支援することは医学部定員増員よりも即効性に優れ、政策コスト面においても費用対効果が高いと考えられる。従来の調査は労働環境や支援体制など個々

の要因は継続的就労とは独立に扱われ科学的に評価・検討されてこなかった。国内における女性医師を対象にした意識調査では女性医師の就労は結婚・妊娠・出産などのライフイベントに大きく左右されるとされ、男女参画委員会などで労働環境改善や支援体制の整備が強調されてきた。しかしながら女性医師の就労環境の現状は一部の病院を除きあまり改善されておらず、現在も大学病院や研修先として人気のある病院では女性医師は男性医師と同様に労働することが当然のように要求され、多くの女性医師は妊娠・出産を契機に第一線から退いているのが実態である。こうした背景には医師の社会がまだまだ男性中心の社会であり女性医師の抱える問題が男性医師や医療社会に十分に理解されていないことがある。

また従来からの調査は女性医師のキャリア意識から就労を決定する要因についての検討や医師の過酷な労働環境が与える女性特有の問題についても未検討であった。キャリア意識とは就労意欲や医師という職業に対する意識、やりがいを目指し、海外の研究では医師の継続的就労に重要な因子であると報告されている (Journal of Rural Health, 1996 ; Arch Int Med, 1999)。特に医師の職業意識は性差によって異なるとされ、男性医師は専門性や技術向上、また社会的地位や収入などにより高い関心を抱くのに比べ女性医師は医師患者関係を重視した往診や外来診療、予防医療等に関心が高い傾向があるという (J Womens Health, 1998 ; Patient Educ Couns, 2002)。

過重労働が及ぼす身体への影響については 2007 年に医労連が行った実態調査があり約 6 割の女性医師に妊娠時の異常が認められたと報告されている。こうした結果が発表されたにも拘わらず過重労働との関連を科学的に検証する研究は少ない。

本研究申請者はこれまでに医療の質向上のために医師という人的資源の有効活用について研究を重ねてきた。厚生労働科学研究班「新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究 (主任研究者：福井次矢聖路加国際病院院長)」では研究協力者として全国の研修医調査を行い新研修制度の評価をおこなった (Nomura, et al. The Journal of General Internal Medicine, 2008 ; Nomura, et al. Medical Teacher, 2008)。

また申請者は 2007 年衛生学会 (大阪)、2008 年公衆衛生学会 (福岡) において全国市町村別の診療科別医師数を用いて医師の地理的偏在について発表を行い、「医師は都市部に集中する傾向が強く、町村部では格差が大きい」ことを所得格差で知られる GINI 係数を使って明らかにした。つまり医師不足問題は絶対数を増加させても医師の偏在問題は解消できない (現在、海外誌に投稿中) ことを如実に示しており、申請者が医師のキ

ャリア意識に注目するきっかけとなった研究である。

本研究申請者は、医師免許を持つ教員として女子医学部生に日常的に接し不安や悩みを聞く一方で、同窓会理事会に理事として参画し女性医師のキャリアとプライベートの両立を支援してきた。本申請研究は、昨今深刻な社会的問題となっている医師不足に対して実効的な解決策となりうる女性医師の活用 (継続的就業支援) を女性医師として自らが命題として取り組む初の研究であり、これまでの表層的な意識調査とは一線を画すものである。

## 2. 研究の目的

1) 女性医師のキャリア意識を調査し結婚・妊娠・出産などのライフイベント、労働環境や支援環境にどのように影響を受けるのか明らかにする。

2) 女性医師の妊娠・月経異常について調査を行い、過重労働にどのように女性特有の問題が影響を受けるのか明らかにすることを 3 年計画で予定している。

## 3. 研究の方法

女性医師の継続就労に影響を及ぼす因子について全国私立医科大学 14 校を卒業した女性医師 (N=1694 名;回収率 83%) を対象に就労形態 (フルタイム vs. パートタイム) をアウトカムにしたロジスティックモデルにて検討した。

### 【平成 21 年度】

1. 学内倫理審査委員会に申請
2. 関連文献・先行類似調査・婦人科問診票などを収集・レビュー
3. 質問票を作成

キャリア意識について複数女性医師に半構造化面接を行い調査票案を作成する。さらに予備調査として実際に複数の医師に依頼し調査項目が十分か、選択肢が明確かなどを確認し最終版を作成した。

4. 同窓会理事会にて調査票の主旨、内容、調査の実際について説明

5. T 大学同窓会会長経由で他大学同窓会会長に調査協力を依頼した。

### 【平成 22 年度】

1. 調査  
研究デザイン：横断研究  
調査項目：

① 年齢、婚姻状況、子供の数と年齢、配偶者の職業、居住地、資格 (医学博士、学会専門医)

② キャリア意識に関して：仕事の継続性に対する希望 (就労意欲)、職業に対する意識、やりがいのある診療内容 (往診などの患者医師関係に重点を置いた医療や予防医療など)

③ 労働環境に関して：診療科、雇用形態、労働状況（勤務時間・当直回数・年休取得状況）、妊娠・出産・育児における悩みや不安、支援体制、就労状況の変化、ワークライフバランス、支援体制（両親の居住地、育児を頼める人材の確保状況）

④ 女性特有の症状に関して：月経関連症状、妊娠時の異状

## 2. データー入力・データークリーニング、基礎解析

エクセル入力の上、CVS データーとして保存し、統計ソフト SAS9.1 にて解析を行う。解析は単純記述統計のほか、以下の二つの研究仮説に沿ってロジスティック回帰分析にて行う。

仮説 1：女性医師の就労意欲および医師としての職業に対する意識ややりがいのある診療内容が例えば往診などの患者医師関係に重点を置いた医療や予防医療などであった場合に結婚・妊娠・出産などのライフイベント、労働状況や支援体制に関わらず継続的に就労する傾向にある。

原因：キャリア意識（就労意欲・職業意識・やりがい）

アウトカム：雇用形態の変化

多変量ロジスティック解析モデルで投入する変数：女性医師の年齢、結婚・妊娠・出産などのライフイベント、資格、ワークライフバランス、労働環境 支援体制 子供の数や年齢、配偶者の職業

仮説 2：過重労働の程度にそって月経随伴症状および妊娠に伴う異常の頻度が上がる。

原因：労働時間と作業強度

アウトカム：月経随伴症状および妊娠に伴う異常

多変量解析モデルで投入する変数：女性医師の年齢、労働環境

### 【平成 23 年度】

医学教育学会・公衆衛生学会などの関連学会にて発表し、医学学術論文として国内・海外誌に投稿した。

## 4. 研究成果

このことより女性医師の継続因子には従前から指摘されてきた女性の社会的役割のほか、医療界の男女の就労格差、学会認定資格や医学博士の取得などが関連していることが明らかとなった。

### (1) パイロットスタディ

初年度の平成 21 年度にパイロットスタディを行った。従前わが国で女性医師の就労を困難にさせると報告されてきた労働環境や子どもの有無といった家庭因子のほか、医師の性に関連した不利益な経験と男女就労機会格差に注目し、これらの因子が就労状況（パートタイム vs. フルタイム）にどのように影響を及ぼしているか検討した。調査の対象

者は、某大学医学部同窓会会員 1346 名中、676 名（回収数：男性 452 名、女性 224 名）の男女医師である。性に関連した不利益な経験については、「性別のために有給ポスト獲得・昇進人事・終身雇用の機会を得られなかったと感じる経験はありましたか」と尋ね、さらに不利益な経験を受けた相手の職種と性別について尋ねた。男女就労機会格差については、適切な尺度がなかったため、「医学部で女性は昇進しにくい」を筆頭に 14 問を作成、因子分析を行い変数を新たに作成した。女性医師の就労状況は、フルタイムが 66%、パートタイムは 32%、無職および休職は 2%（6 名）であった。性別のための就労上の不利益な経験について「あった」と回答した医師は女性で 40 名（18%）であるのに対し、男性では 15 名（3%）であった。また不利益な経験を受けた相手の職種と性別では、女性医師で「異性の患者」、「異性の上司」が特に高かった一方で男性医師においては、職種や性別で差はなく頻度も「全くない」か「ほとんどない」であった。男女就労機会格差の 14 項目は 1 項目をのぞくすべての項目で、男性医師よりも女性医師で点数が高かった。統計学的に専門医の取得をしているとフルタイムにある傾向があることと、男女就労格差の点数が高いとパートタイムにある傾向が認められた。子どもの有無、性別による不利益な経験は就労状況に関連を認めなかった。男女就労機会格差の得点が高いということは格差を強く認識しているということであり、それが就労状況と関連を認めたことは非常に示唆的である。

### (2) 私立医科大学合同調査

女性医師の継続就労に影響を及ぼす因子について全国私立医科大学 14 校を卒業した女性医師（N=1694 名；回収率 83%）を対象に調査を拡大させた。就労形態（フルタイム vs. パートタイム）をアウトカムにしたロジスティックモデルにて統計学的に有意であった因子には婚姻状況にあるもの、子供を持つものでフルタイムよりもパートタイムで働いていた。従前の結果と同様に女性医師の就労には女性の社会的役割が障壁になっていた。さらに同じモデルにて男女の就労格差に対する認識が強いとパートタイムで働く割合が多く、ガラスの天井を意識することで就労意欲に何らかの影響があることが示唆された。また女性医師のキャリア構築の観点から就労形態と学会認定医資格の有無と医学博士取得の有無についても検討を行ったところ、フルタイムではパートタイムに比べて認定医あるいは専門医資格を取得している割合が多いこと、医学博士を取得している割合が多いことが認められた。このことより女性医師の継続因子には従前から指摘されてきた女性の社会的役割のほか、医療界の男女の就労格差、学会認定資格や医学博士の取得な

どが関連していることが明らかとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

①野村恭子、山崎由花、鶴ヶ野しのぶ、丸井英二、矢野栄二。結婚・出産が女性医師の職業満足度へ与える影響—2 大学医学部同窓会調査より—。医学教育学会雑誌 42 巻 4 号 Page209-215 (2011) 査読あり

②野村 恭子、佐藤幹也、鶴ヶ野しのぶ、矢野 栄二。女性医師の就労に影響を与える因子の検討。日本公衆衛生学雑誌, 58 巻 6 号 Page433-445 (2011.06) 査読あり

③野村恭子：我が国の医師不足問題：医師臨床研修制度と医師の人的医療資源の活用。日本衛生学雑誌, 66 巻 1 号 Page22-28 (2011.01) 査読あり

[学会発表] (計 7 件)

1. Kyoko Nomura, Kengo Gohchi. Influence of the experience and the perception of gender-based career obstacles on the working status of female physicians: alumni survey of 13 medical schools in Japan. Women Health 2012, Washington DC. 平成 24 年 3 月

2. 野村 恭子、合地研吾、矢野栄二。医師における仕事と私生活の関心と家事労働時間の男女比較。第 82 回日本衛生学会。(京都) 平成 24 年 3 月

3. 野村 恭子、合地研吾、矢野栄二。女性医師の認定・専門医取得に影響を与える因子の分析。第 82 回日本衛生学会。(京都) 平成 24 年 3 月

4. 野村 恭子、合地 研吾、矢野 栄二。女性医師の就労支援に向けた私立医科大学北関東ブロック合同調査：就労面の検討 平成 23 年 8 月 第 42 回医学教育学会(広島)

5. 野村 恭子、合地 研吾、矢野 栄二。女性医師の就労支援に向けた私立医科大学北関東ブロック合同調査：労働衛生面の検討。平成 23 年 8 月 第 42 回医学教育学会(広島)

6. 野村 恭子、佐藤幹也、鶴ヶ野しのぶ、矢野 栄二。医師における就労上の不利益な経験と機会格差の男女比較。平成 22 年 7 月 第 41 回医学教育学会(東京)

7. 野村 恭子、佐藤幹也、鶴ヶ野しのぶ、矢野 栄二。女性医師の就労形態に影響を与える因子の検討。平成 22 年 7 月 第 41 回医

学教育学会(東京)

[図書] (計 3 件)

1. 野村 恭子。医師不足時代における女性医師の就労支援対策。In ケースメソッドによる公衆衛生教育 第 5 巻。平成 23 年 篠原出版新社 総ページ数 215

2. 野村恭子。医師不足対策：人的資源管理からの分析と女性医師の就労支援。In ヘルシー・ホスピタル ed by 第 7 回帝京・ハーバードシンポジウム実行委員会。平成 21 年 篠原出版新社 総ページ数 214

3. Kyoko Nomura. Physician Shortage: Analyses from the perspective of Human Resource Management and Work Support for Female Physicians in Japan. In Healthy Hospital, ed by The 7th meeting of Teikyo-Harvard Symposium;2009 総ページ数 221

[その他]

ホームページ等

<http://homepage3.nifty.com/dzb/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

野村 恭子 (NOMURA KYOKO)  
帝京大学・医学部・講師  
研究者番号：40365987

##### (2) 研究分担者

矢野 栄二 (YANO EIJI)  
帝京大学・医学部・教授  
研究者番号：50114690

鶴ヶ野 しのぶ (TSURUGANO SHINOBU)  
帝京大学・医学部・リサーチフェロー  
研究者番号：10359630

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：